

## 青年は幻を見、老人は夢を見る

——これからのイマヌエル——

ブロックアドバイザー 田中 進



第71次教団年会を越え、私たちの群も新しい歩みが始まりました。牧師異動のあった教会も含め大牧者である主が、それぞれの教会を見守ってくださいさるよう、祈りましょう。

さて、この年会時に70周年記念事業として残されていた出版の一つフルカラーの冊子『聖と宣』の足跡が刊行されました。記念事業としては昨年の記念集會とともにこれで締めくくられます。

一方の集會部門は年輩の信徒委員の2名の方々の提案で全国青年部の協力を得て、全国各地から推薦された青年9名を加えて委員会を発足させました。これからのイマヌエルを担う方々とビジョンを共有するためです。全国教会の協力を得て委員会企画のアンケートを実施し、得られた二千数百の回答を青年委員が分担して集計分析し、教団諸教会の共通の課題を浮き彫りにしました。それに基づいて昨年、中日黒教会での青年大会部門では画期的なパネルディスカッションも実施されました。また青年委員たちは教報の紙面に「献身・結婚・教派の他飲酒など」のテーマを彼らの視点でこの春まで連載しました。年輩の信徒委員は青年と会合を重ねながら、一方で青山での全国大会（台同礼拝・派遣礼拝）を関東の有志信徒がたと企画運営しました。以前牧師たちだけで運営していた時代からすると隔世の感があります。

先のアンケートなどを踏まえて、結婚を真剣に考え

る方々のために、新結婚情報サポートシステムの始動、秋に持たれる新企画のカナ・フェロシップ（主によるこばれる結婚をめざして）を開催します。

主への献身と伝道者への召し。このための小冊子を制作します。また伝道者を養成する聖宣神学院をもっと身近にとらえ、積極的に参与するために、神学院後援会が発足します。

他の教団教会との交わりを深めるため日本伝道会議にも積極的に参加します。

私たちのイマヌエルの群は70年を越え、人の一生に匹敵する節目を迎えています。今まで経験したことのない、さまざまな課題にも直面しています。しかし、キリスト教会二千年、宗教改革五百年の歴史からすると、やっと一通りの経験しているに過ぎない、これからの群なのです。

イースターからペンテコステに向かうシーズン。私は夢見ています。「合議的監督制」が成熟し、牧師と信徒の共同参画が自然になされていく群となることを。なぜならキリストのからだなる教会の肢体であるお互い一人ひとりに、同じ聖霊のいのちが流れているのです。70周年記念の動きの中で主は私たちにその前ぶれを見せてくださいました。

「神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。」（使徒二・17）

青年は幻を見、老人は夢を見る……田中 進……1
第71次年会・聖会の報告、第63期生卒業式……2
藤本満代表説教要旨、聖会説教要旨……3
海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
年会でのセミナー報告、燭台……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

## 第71次年会報告 「献げる・交わり・愛される」をテーマに



新潟教会 黒川 哲

第71次年会在が3月8日から10日にかけて、埼玉県武蔵嵐山の国立女性教育会館(ヌエック)で持たれました。全国の教会の皆様のお祈りとご支援のもと、新たな恵みを頂く機会となりました。

1日目は、「献げる」との思いを新たにさせて頂きました。集合時間午後5時のところ、1時間前の受付開始時間午後4時には、受付前に全国各地から集った出席者が大行列をなしていました。ここにわずかの時間も全てを献げる結果が見られました。続く聖会Ⅰでは、聖宣神学院卒業生による献身の証し、献児式、藤本満代表を通じての「生き者であれ」とのメッセージからも、改めて「献げる」思いを、その身と心に刻む機会を頂きました。

そして2日目。「交わり」ということを念頭に進められました。午前には、ハラスメント、危機管理対応、交わりの神学についての



年会会場となった埼玉県の国立女性教育会館

研修会が持たれました。ハラスメントの学びでは、聖なる教会に向けて、集い合う互いの交わりに躓きや妨げとなる言動をもたらさない配慮を、まず教役者自らが学び続ける必要と、今後の教団、教区における学びの方向性が示されました。危機管理対応については、自然災害、人災に際して、傷みを受けた被災者に、教会が交わりを持つに当たり、仕え、寄り添い、安心と安全を届ける必要と、その時に備えて、教会自体の安否を知らせる意味も含め、常日頃から、教団を越えて地域の教会、あるいは近所との交わりを持ち続けるべき大切さが語られました。交わり(コイノニア)の神学の学びでは、教役者と信徒との関わりにおいて、奉仕が主体となり、信徒の奉仕疲れと言う問題も取り沙汰される中で、改めて聖書の御言葉に基づいて、互いの交わりの時を見



6月で日本での働きを終えるWGMサークル師の挨拶

直すべきことが提起されました。その後、小グループに分かれての交わりの時が持たれました。日頃、交わりを伝道のためにどのように活かしているか、今後の年会総会、全国大会に向けて、どのような形態が必要とされているかが話し合われました。

午後には、まず日本伝道会議の紹介がなされ、教団を超えての交わりから、伝道に向けて心一つにする思いが与えられました。

続く議事会前の小礼拝では、引退を前にされた田中敬康師より、震災を含め、伝道者生涯全てが神様との恵みの交わりの時であったと語られました。その後の議事会では、教財勢において困難な現状にあっても、教団内の交わりを深めつつ、教団教派をも越えた交わりを広げながら、互いに祈り支え励まし合う方向性が示されました。夜の聖会Ⅱにおいても、聖宣神



第71次年会在を締め括る任命式

学院卒業生2名の証とそれに続くメッセージからも、神と人の交わりの在り方、時を越えて過去・現在・未来を通じての変わらない神との交わりに感謝を新たにさせて頂きました。

3日目には、「愛される」との思いを確かめました。聖会Ⅲにおけるメッセージから、ヨナをも愛された主が、今も私たちをも、任地をも愛し続けておられることを示され、愛される思いを新たに任地へと遣わされました。愛される感謝のうちに任命を頂き、互いに祈り合い、励まし合いつつ、愛し、愛される思いの内に、任地へと遣わされました。

全体として、献身の思いを新たにしつつ臨むなかに、愛の交わりの豊かさが溢れる年会在でした。来年に向けての期待感も益々膨らむ喜びがありました。



3月4日(金)、卒業式・終業礼拝をもって4名の卒業生を送り出しました。橋本千尋兄(中目黒教会出身、シニアコース)、館和人兄(船橋教会出身、短期コース)、大畑真紀子姉(カルバリーバプテスト八王子高尾教会出身、正規コース)、大島あや子姉(宇都宮教会出身、短期コース)の4名です。人生経験豊かな顔ぶれで、平均年齢は61歳、修業年限もそれぞれです。任地での奉仕が祝されるようにお祈りください。

聖宣神学院……

## 第63期生卒業式 4名を送り出す

\*\*\*

神学院院長 河村從彦

# アブラハムの信仰に倣って

教団代表 藤本 満

「わたしは全能の神である。あなたわたしの前を歩み、全き者であれ。」(創世記一七章一節)

(1)信仰の人アブラハムのようにへブル書には「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。」(一一・八)と書かれています。初めての米国体験は衝撃の連続でした。ホテルで聖書の「あなたがたはここを騒がしてはなりません。神を信じ、また



(2)全能の神の御前に全き歩みをアブラハムが子供を設ける可能性が人間的に限りなくゼロに近くなった時、主は「自身を現され」私は全能の神(エル・シャダイ)である」と仰せられます。教団として、様々な策を講じながらも、人間的な可能性は乏しくなっています。そのような時に主は現れ、そして、「私は全能の神である」と仰り、祝福を約束してくださいます。主はアブラハムに、「あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ」と仰せられます。私たちは主にすべてを見られていて、意識することが必要です。「全き者であれ」と主は仰せられます。「全

き者」になるとは、完全無欠になることではなく、主の前に、真実に、信頼できる存在となることです。また、信仰者としてのレベルを上げることです。これが意味することは、人それぞれです。このとき、アブラハムとサラの名前が変えられたように、今までのあなたとは違う歩みをするのです。

(3)心の割礼／十字架の焼き印 契約を結ぶ際に、「自分を切れ」と主はアブラハムに命令されます。包皮を切ること、割礼を受けることは、痛みを伴う、信仰の犠牲を払うことです。またそれは、心の割礼である必要があります。主の御心になうように、わたしたちの心・魂の一部を切り捨て、それを「印」として主の前を歩むのです。パウロはガラテヤ六章17節において「私は、この身に、イエスの焼き印を帯びているのですから」と書いています。福音のゆえに受けてきた様々な傷(ステイグマータ)を、私たちもその身に帯びています。私たちは自分の罪深さを知るがゆえに、また、十字架の傷を身に帯びているがゆえに、傲慢になりません。ホーソンの『緋文字』に登場する、緋文字を身に帯びたヘスター・プリムも、愛の業を行いながら、傲慢になることはありませんでした。どこまでも神の全能を信じ、自分の罪深さに遡り、十字架の愛に感謝し、それに徹して生きる事を印として歩み続けましょう。(久保光彦・記)

## 聖会説教 2

### 希望は神にある

Ⅱ コリント1章3~11節

教育局長 林 正弘

この第二コリントは、パウロが自らの弱さをありのまま証している箇所です。パウロと私たちとを重ねあわせながら、いま私たちが何を為すべきかを考えてみます。

①年会は、過去を振り返るとき 年会で、私たちは教団、教会そして自らの歩みを振り返り、多くの苦難を思い起こしました。しかしそれだけに留まらず、彼はその苦難から救い出してくださいました。神を思い起こしています。

②年会は、現状を捉えるとき 年会は教団の現状を把握し、共有するときです。また神の前の自分の現状、共におられる主を捉えるときです。パウロは3節以下で主を捉え、主がどのようなお方であるかに思いを注いでいます。

③年会は、前に踏み出すとき 10節をご覧ください。パウロは、過去の救いの経験を述べるとともに、これからも主は私たちを救い出して下さると領きつつ、明日に向かって踏み出しました。パウロは人生の経験を積み重ねるほど、神をより頼む生涯へと導かれていきました。パウロのように救いの経験を心に留めながら、なお進んで参りましょう。

## 聖会説教 3

### 何を中心に歩んでいますか?

ヨナ書四章

世界宣教局長 梅田登志枝

ヨナには優れたところがありました。神との交わりの世界を知っていました。宣教の情熱もありました。一方でヨナは大きな問題を抱えていました。彼の「自己中心性」です。神の視点に立とうとしない、あくまで自己の視点に固執する自己中心性です。これが一章と四章で浮き彫りになります。

一章では、神に対する不服従として彼の自己中心性が現れます。もし敵国であるアッシリアが滅びを免れるなら、それは祖国への裏切りとなる。ヨナは自分の確信する使命感に立っていました。神の使命とのギャップが生じたときも、自らの使命を押し通しました。

四章では、神の愛に対する無理解として彼の自己中心性が表れます。神がニネベの人々を愛しておられるとは認めようとせず、選ばれた自分たちだけが愛されていると思ひ込みます。私たちもこの「選民意識」を警戒すべきです。

四章11節に滅びる者を憐れむ神の愛が示されています。これが私たちの宣教の土台です。この愛に私たちは常に立ち返るべきです。いま神は私たちに「あなたは何を中心にして歩んでいるか」と問うておられます。(宮崎聖輝・記)

### 国内教会局から

## 兼牧教会のために祈りを 教会の主を仰ぎながら



今年年会で、狭山、白鳥、京都西、姫路(加古川)の諸教会は、牧師が他の教会との兼牧をすることにになりました。このことは、専任の牧師がその教会に常駐しないことを意味します。引退された5名の先生方の欠

けを補えなかった訳ですが、それでも、牧師のいない教会を出さないための苦肉の策でした。

兼任する牧師自身のみならず、牧師を送り出す教会も、受け入れる教会も、それぞれが多くの犠牲を払うことになりましたが、よろしくお願いします。どうかこの試練を積極的に受け止め

て、信徒同士が互いに祈り合い、支え合い、主のからだである教会の建て上げのために、主体的に取り組みますように。また、全国の教会でも、これら兼牧の教会のために祈りの手を上げましょう。(内山勝)

\*コラムを担当してくださる鷹田崇志先生が転任のため、内山勝先生に代わって書いていただきました。

■旧統一教会が韓国で3000組  
合同結婚式  
ロイター通信が報じるところで、韓国・加平(カピョン)で2月20日、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)の合同結婚式が行われ、

62万国から約3000組が参加した。韓国の本部責任者は、オンラインでも世界から1万2000組が参加したとしている。20日の式では、2012年に92

2000組は入信前に結婚しており、合同結婚式であらためて献身するため出席したという。合同結婚式は、文鮮明氏が1960年代初めに始めた。

■ネパールの新憲法が「改宗」を禁止  
ヒンズー教が優勢なネパールで、ある宗教から他の宗教への改宗につながる行為を禁止する条項を、国会が新憲法に盛り込んだ。過激ヒンズー教グループの要求に屈した形。別の宗教を破壊したり妨害する行為も禁止している。

議会は同時にネパール国を非宗教で全ての宗教に中立だと宣言している。8000人もの死者を出した2015年4月の地震以来、キリスト教への期待が急激に高まったことに危機感を持ったヒンズー教側が憲法制定に影響力を発揮した、と米宣教通信「アシスト」が伝えている。

■中国共産党・政府は沿岸部の浙江省で、キリスト教会の屋根に取り付けられた十字架を強制撤去したり、撤去に抗議する信徒を相次ぎ拘束したりするなど抑圧を強めている。時事通信によると、同省温州市の政府系サイト「温州網」は2月25日、十字架撤去に抗議する教会や信徒を支援し、昨年8月に拘束された人権派弁護士・張凱氏が温州で信徒の抗議集会を画策・組織したと報じた。張氏が当局に迫られ、「社会秩序を混乱させ、国家の安全に危害を与えた」として「ざんげ」したとする映像も放映された。(平瀬聡樹)



## 海外トピックス

### 読書の

### ひろば



### 教団創立70周年記念出版

### 「聖と宣」の足跡

そくせき

70周年記念事業委員会発行  
出版事業部扱い  
定価三〇〇円+税

教団創立70周年の記念事業として予定されておりました記念出版が、このたび『聖と宣』の足跡として発行されました。もっと早くと思いつながら、たいへん遅れたことをお詫びいたします。

どのような記念誌を作ろうかと担当の藤本満先生と相談を重ねてきました。教団歴史を扱ったものは、すでに創立60年の時に竿代照夫先生によって『インマヌエルの60年』として出されましたし、50周年の時には『聖と宣』として三森春生先生が教団創設前後の詳細な記録を残してくださいました。

それで、70周年では重複を避け、コンパクトな教団紹介の冊子を作ることにしました。全ページをカラーにして、70年の歴史や活動をわかりやすく解説し、また、パラパラッと見るだけでわかっていただけのように写真をふんだんに載せることにしました。これまでも教団紹介のトラクトはありましたが、ほんの数ページでしたので内容的にも十分ではなく、物足りなさを感じていました。

とは言い、今回はページ数を64ページに圧縮しています。教会員の皆さまだけでなく、求道者の方々、また皆さまのご家族や友人に教団を紹介するために用いたいだけのように工夫しました。

全体は3部に分かれています。第1部は、昨年の70周年記念大会の記録と代表の藤本満先生、WGM総理ハリマン先生の説教が載っています。第2部は、教団の歴史を宗教改革から説き起こし、これからの課題で結んでいます。第3部はインマヌエルの通年の活動を写真で紹介しています。もちろんすべてが網羅されているわけではありませんし、省いたところが多々あります。詳しくお知りになりたい方は上に記した二冊をご参照ください。

手軽に用いていたため価格も抑えました。定価は300円+税となっていますが、当面は創立70周年の記念出版事業として200円で販売いたします。ぜひご活用ください。(矢木良雄)



年会研修会1……

# 聖なる教会を 目ざして

名古屋教会 内山 勝

人権委員会はパンフレット「聖なる教会を目ざして」ハラスメントを題材として」を作成しました。2008年4月の週刊「AERA」に3教会牧師による性犯罪問題が掲載されて以来、教会はハラスメント問題と向き合わざるを得なくなりしました。当教団でも、人権委員会を設置して学びを重ねて来ました。その結果、この問題の根底には、牧会理念への根本的な問いかけがあることを確認しました。そこで、同委員会は、教会への啓蒙のために、ハラスメント全般を扱うパンフレットを発行することを決定したのです。

同委員会の問題意識を受け、このパンフレットを有効に用いるために、①教区会で牧師の研修を行います。それは、牧師自身が先ず、自分の牧会姿勢を真摯に振り返って悔い改めるためです。②さらに、来年は、役員リーダー研修会で、信徒の皆さまにも自分と向きあう機会を差し上げたく願っています。70周年を越えた今、牧師も信徒も初心に返り、聖なる教会の建て上げに立ち上がりましょう。

年会研修会2……

# 災害への備えを 災害対応と危機対応

武蔵村山教会 岩上敬人

災害対応と危機対応について学びたいと思います。災害とは、個人やグループが心的外傷にさらされ、それに適応できなくなる恐れのある出来事だと定義できます。一方、危機とは災害によって、人々が受ける影響のことです。

災害対応としては①地震の備え②保険の加入③地域教会とのつながり④地域社会のつながりが大切です。孤立せずに、助けを求めることができる関係作りが災害対応の中心にあると言えるでしょう。

危機対応の中心は存在を通して仕えることです。つまり、私という存在を通して相手を主に繋げることです。危機の中にある人たちは、安心と慰めを与えてくれる人の存在を切望するからです。具体的には①相手に安心を与える存在となる。②安全な環境を提供する。③情緒的に霊的に寄り添っている。④これからも一緒にいることと伝える。⑤良い聴き手になる。⑥自己中心ではなく相手中心にする。⑦相手を裁かない。⑧相手の基本的必要に応える。⑨相手を依存ではなく、自立させること。

年会研修会3……

# 交わり(コイノニア) の神学について

神戸教会 岩上祝仁

教会での交わりについて聖書から見直しました。

①交わりの基礎Ⅱ創造論から三位一体の神は愛の神である。その神に似せて創造された人間もまた交わりに生きる。(イヨハネ四・8)

②交わりの破壊・罪の現実Ⅱ人が罪を犯したため神のとの交わり、人との交わりは破壊された。教会の中でも、罪と自己中心によって交わりは傷つき、破壊される。

③交わりの回復・十字架の恵みⅡ罪によって破壊された交わりは、主の十字架に基づく和解と赦しによって回復される。(ピレモン6)

④交わりの内容・霊的交わりⅡ単なる楽しみではなく、信仰による霊的な営みの中心。(使徒二・42)

⑤交わりの方向性・外に向かつてⅡキリスト者の交わりは、キリストの苦しみに参与する交わり。それは滅び行く人々を救いに導く働きへの参与である。キリストの愛への参与となる。(ピリピ三・10)。

\* 9月の日本伝道会議ではこの神学に基づいて小グループでの交わりを行います。



## 年齢にあつた歩調で

◆春になり、新しい環境に入る方も多いのではと思われれます。三月の年会では、神学院で期の近かった先生方が引退されたこともあり、私には考えさせられることが多くありました◆年会から戻った十日の夜には定期の祈禱会を持ち、震災に関しても皆で祈りました。震災を思うと、心の痛みは年ごとに増すように思います◆翌日は3・11で、朝からテレビがそのことばかりを取り上げていました。被災地へのいろいろな支援がある中に、この五年間、私どもの教会だけが関わってきたことがひとつあります。それは、震災の年から、某大学の同窓会郡山支部が、年に一度の集まりの前に当教会で持つようになったクリスマスマスの礼拝です。ささやかな働きながら、信徒の有志も受付などの奉仕に加わり、教会を挙げての祈りのうちに、伝道の一環として取り組んできました。そのことに関して、たまたまその朝、私どもは話しあっていました。「なかなか思うような結果はないけれども続けて行こう」と◆ところがその日の夕方、その「礼拝」に毎年参加している女性から、突然私宛てに電話があったので

す。もう一人の「礼拝参加者」と私と三人で近々女子会をしませんかというものでした。私はその大学の卒業生でもなく、その方々は、集会時の挨拶程度のお付き合いしかしておりません。友だちも他にたくさんいるはずでしょうし「なぜ、私なのだろうか」と思いました。その上、人と接することは得手ではないので断ることもできずでしたが、福音のためにと思いつくことにしました。伝道に関わることとなれば、ほんのちよつとした可能性にも賭けてみたいと思つたのです◆牧会に限ってても、昨今経験をしたことのない新しい課題が押し寄せて来て、あれこれと思ひ悩み祈ることが多くあります。けれども、私に与えられた聖句「あなたは年を重ね老人になつたが、まだ占領すべき地がたくさん残っている。」(ヨシユア一三章一節)があるので、執り成しの祈りの範囲を広げて、伝道を第一に、年齢にあつた歩調で進んで行きたいと思つています。

(久保以津子)



巻頭言

主の宣教のプログラム



世界宣教局長  
梅田登志枝

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証



広げた翼

Immanuel  
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

人となりませう」

使徒の働き一章8節をみると、主の宣教のプログラムが明らかにされています。しかもこれは主キリストが天に昇られる前、弟子たちに最後に語られた大切なメッセージです。

宣教の方法

宣教の働きは人を通してなされます。主キリストは「あなたがたは私の証人となります」と弟子たちに約束されました。今日、主は牧師、宣教師、信仰者を通して宣教の働きを力強く進めなされるのです。

宣教の範囲

それは、エルサレムから地の果

てです。私たちは地の果てを覚えながら、自分が置かれた場所、任地で、教会で、宣教地で働きをします。困難があっても、世界宣教のヴィジョンを失うことなく祈り、奉仕したいものです。

宣教の動力

宣教の働きは、人間の知恵や戦略でなされるものではありません。主は「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき」と宣言されました。使徒の働きを読みますと、聖霊に満たされた弟子たちが、用いられて、福音が伝えられ、様々な困難を乗り越えて、エルサレムから、小アジア、ヨーロッパ世界に拡大していきました。

今からおおよそ一五〇年前、眼科医ヘボン夫妻は宣教師として日本に派遣されます。診療所を開設して日本人との信頼を築き、そこで行われたバイブル・クラスでクリスチャンが興され、やがて教会誕生へと繋がるのです。その活動はミッションスクール設立、和英辞典や聖書翻訳の執筆などへと広がっていきました。

ひとりの人の宣教への応答が、海を越えた日本で、福音を必要とする多くの人々のために、聖霊によって偉大な働きとなりました。私たちも私たちにできることで主の宣教のプログラムに加わろうではありませんか。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子\*2016年3月13日

「そのとき、ヤコブの残りの者は、多くの国々の民のただ中で、主から降りる露、青草に降り注ぐ夕立のようだ。」ミカ五章7節

第3期フィリピン宣教開始

1月から3月まで続く学びの途中で常喜は家族を迎えにフィリピンから日本に帰国しました。

初めは家族で出席するはずの年会第一夜は、引越しの直前の慌ただしさで常喜だけが出席することとなりました。恭子の右足の甲が突然痛みだし、直前の準備もままならない状態で荷造りを行い、何とか翌朝に、予定より少し遅れてでしたが出発。空港に到着してからも、恭子は足を引きずりながら、実喜を抱き、荷物のカートを押していました。それでも段々とお姉ちゃんになってきた希乃実と実和子が弟の面倒をみて手伝ってくれました。日本での1年間の滞在で、子どもたちは随分と成長しました。一番端にある格安航空の

搭乗口まで約500メートルの距離を、恭子も子どもたちも自分の足の足で楽しみながら歩いて行くことができました。

3月9日午後3時30分、私たちはマニラ空港に無事到着。世界宣教局長シルバー先生を迎えられ、荷物は本部の車で、私たちはタクシーで空港から本部があるバレンズエラに向かいました。ところが、本部の近くで選挙運動があり渋滞という情報が入り、私たちは本部から500メートル手前でタクシーから降り、そこからは歩いて本部に向かいました。娘たちは不平を漏らすこともなく、その距離を難なく歩いてくれました。

翌日、宣教車のエンジンが掛からず、バッテリーの交換が必要とのこと、バッテリーを購入し、交換しましたが、それでもエンジンが掛からず、御用達の修理屋を呼ぶことになりました。すぐに修理が終わる、そのおかげで午後ロザリスに出发し、夕方には到着することができました。

常喜は、残りのクラスと課題のために、その翌日未明には宣教車でマニラに戻りました。

子どもたちは英語を忘れてしまいましたが、現地仲間と遊び始めています。希乃実は、忘れた英語がすぐに話せるようにとお祈りしています。

皆様からのたくさんのお祈りと現地の方々の協力に支えられながらフィリピン宣教が始まりました。感謝とともに。■



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃\*2016年3月4日

昨年2月に激痛と歩行困難に襲われ、多くの聖徒方の執成しのお祈りを賜りましたこと心から感謝申し上げます。

4月赴任予定が大幅に遅れ、治療に専念した一年も瞬く間に過ぎました。しかし、この激痛と、加えて足の痺れの治療の間、すべてが主の御心の中に許されていることと領かせられたのは心中の平安と御言の数々でした。特に召命の聖句イザヤ四九章1〜6節、詩篇二篇8節を再確認させて頂き、主の時を待つことの訓練とさせて頂いたことも感謝です。

スカイプとメールという文明の利器を利用しながら現地との連絡を続けつつ、祈りつつ待ち望みました。整形外科医の意見もあり筋トレを勧められるまま数か月、女性専用の筋トレに通うこと、数か月で痛みからも解放され歩行も可能となり、後の課題は足の痺れの問題が残っていますが、痛みが和らいだら主の時、と祈っております。



たので、そろそろ短期視察をという思いでおりました。局からも5月に一度出るようにという御達しが入り、5月に出発すべく準備に入りました。短期とは言え3か月は滞在のため、助け手を祈り求めておりましたが、その課題にも主の備えが与えられました。皆様方に現地の主たる働き人をご紹介致します。

現地指導者として立つておられるヴァンディー・ホーン先生ご一家と米国人宣教師のマーク・フィッセル宣教師です。私の滞在中もお世話になる先生方です。背後でのお祈りに感謝しつつ。



BOLIVIA

ボリビア

三森邦夫・加寿子\*2016年3月8日

日本では、梅の季節が終わり、花便りを待つところかと思いますが、こちらは雨期ですので比較的に気温もそれほど上がらず、過ごしやすい時期になりました。

これまでセンターを中心としてきた働きを、リーダーたちに任せることができるようになり、奉仕の締めくくりの一つとして、サンファン移住地訪問を再開することにしました。ボリビアと日本政府が共同で、サンファン移住地に750人を収容できる老人ホームを建設し、先月の末に開設式がありました。移住地の日系一世たちは、デイ・ケアなどいろいろなプログラムを楽しんでいます。家族がケアできなくなった時に、メデイカルケアも含めた施設が必要となったのです。私たちがかつて伝道していた時に、グループに加わっていた人たちも年齢がすすんでいます。私たちの体力と健康が許される限り、何とか訪問して信仰に導いたら、との以前からの

願いを実行に移す時がようやく来たのです。

二週間前訪問をしたとき、以前聖書の学びの会に来ておられた求道者のT兄が、ガンの末期で床についていることを知らされ、早速訪ねてみました。彼はカトリック信徒会の会長も務めた人ですが、私たちの聖書の学び会に出席し、自宅も家庭集会所として、開放してくれた人です。病気がかなり進んでいて、その日は、私たちがだれだかよくわからないようでした。それでも別れ際に「お祈りしましょう」といいますと、それまで天井をうつろに見ていた目を閉じました。「ああお祈りが分かったのだ」と嬉しくなりました。何とか意識がはっきりして、意思疎通ができるように毎日お祈りしました。

一週間後にお訪ねすると、かなり意識がはっきりしていて、こちらの質問にもうなずくほどになっていました。昔集会で歌った讃美歌を2曲、心を込めて歌いました。顔がほころび、「この歌覚えていますか?」との質問に「覚えていますが」と唇が動きました。わかってきていてるので、「また来てほしいですか?」と聞きますと「来てください」というように深く頷きました。信仰告白まで導けるように、また訪問を続けたいと考えています。

帰り道に、私たちの教会員で、サンファンの近くのヤパカ二町に住んでいる、アルフレッドとロサ



夫妻を訪ねました。彼らは以前センター教会がサポートしていた、ヤパカ二のナランハール地区の教会のすぐ近くに住んでいた家族です。私たちのその地方での最初の実で、しばらくサンタクルスセンター教会に来ていましたが、両親兄弟全員が通うようになった近くの教会に通うようになったのです。連絡しないで行ったので、夫妻はいませんでした。二人の息子が大喜びで歓迎してくれ、楽しい交わりの時を持つことができました。当時二人とも子供でしたが、今では大学生、高校の最終学年と、すっかり大人になっていていて驚くほどでした。一家四人信仰に励んでいる由、将来の夢など語ってくれました。大きな励ましを受けて帰途につきました。片道2時間半の道のりですが、心も晴れやかに感謝にあふれた訪問でした。

(写真は、大きくなったマチャカ家のお二人の息子さん)



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子\*2016年3月7日

1月末に、臨床上学士(医療関係機器の修理ができる技師)の方を含めた先発隊をお迎えしました。...

他の手術も他の部屋ではいつも通り行われるので、そのための人員を確保しつつ、心臓外科手術を行う部屋には通常より1人スタッフを増やし、臨時に設置される心臓外科回復室用を24時間体制にするため1日7人の増員、当直も心臓外科用の当直も必要、今回は心臓内科医の先生方も加わって心臓エコー室も通常より人手が必要、と多くの人手が必要でした。...

多くの方々が進んで犠牲を払い、ギャップを埋めてくださいました。患者さん方も、酸素のトラブルなどから回復が心配された方も含めて順調に回復しておられ、21件の心臓外科手術と2件のカテーテル手術が無事執り行われました。...

チームをお迎えする前に修理の終わっていた屋根に、また穴が開き、雨漏りがして貴重なカテーテル類が水浸しになってしまふ、ということもありましたが、今回のチームの方々が新しいカテーテル類を持参し、入れ替えをしてくださったことも感謝でした。...

鳥と言えは、心臓外科手術がまだ行われている夕方、手術室の向かいの倉庫で作業中、さっと何かを通り過ぎました。「え?」と仰げばムクドリ位の大きな鳥が倉庫のドアの上にちよんことまっています。刺激しないようにそつ



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香\*2016年3月6日

と移動してまずは手術中の部屋のドアを閉めてまわり、次に回復室のドアを閉めに行くと、鳥がそちらに侵入して飛び回っています。カーテンや扉を閉めつつ、患者さんがストレッチャーの乗り換えをする玄関ホームまで追い込み、自動ドアを開け、他のスタッフはシートをひらひらさせたりしながら追い込み、ようやく外に出て行きました。...

日頃のお祈りとご支援を感謝いたします。次から次へと私もよくなってしまったことを申し訳なく思っています。足の傷からの炎症は完全には直っていませんが、自分で消毒して何とかなるだろうところまで小さくなってきています。3月4日から椎間板ヘルニア

の痛みが出てびっこを引いてしまふほどでショックでしたが、これ以上治療の望みがないため(電気治療などは症状を緩和させて頂きますが)ザンビアへ帰り、休みながら仕事を進めることにしました。...

お祈りの課題

- ファイリピン(豊田)
子どもたちの生活のために
◆シニシップからの引越越しと6月からの新学期準備のために
◆事故、怪我から家族が守られますように
◆ケニア(葛田就子)
◆心臓外科週が守られた感謝
◆本格的に始める小児外科手術への取り組みのために
◆正しい福音の伝達の為に病院が用いられ、AGCが異端から守られるように
◆香港(鹿島)
◆教会員の成長、受洗者のうえに
◆日中関係が良好に保たれますように
◆邦人伝道の働きが広がられますように
◆カンボジア(葛田緑乃)
◆プノンペン市内の2教会を開

拓するグレッジ宣教師、ヴァンディー師、マーク宣教師のため
◆健康的課題の残りつつの5月の出発と全行程のため
◆働き人の健康が支えられ、経済的が必要が満たされ、カンボジア全土に救霊の戦いと聖潔の教えが勝利をみるように
◆後継者興起のため
台湾(平瀬)
◆新年度の歩みが守られるように
◆信仰入門クラスのため
◆家族の健康と生活のみ守りのため。明里の高校受験のため
◆ザンビア(富澤)
◆宣教師館プロジェクトのため
◆弱きところに主の癒しがあり、強められ癒されますように
◆ザンビア(根廻)
◆日本での巡回報告の祝福のため
◆第2期の時期への準備のため
◆ポリビア(三森)
◆コトカ教会での諸集会が祝福されますように
◆リーダートレーニングクラスが続いています。参加者の霊的成長のため
◆神学校で学ぶ兄弟たちの学びと必要のため
◆私たちの霊肉の健康のため
◆東京国際教会(葛田康毅・由理)
◆新しい主任牧師(諸長榮牧師)の日本での奉仕と生活が祝福されるように
◆イースターに受洗された兄弟の信仰の確立と成長のために
◆教会が宣教師のビジョンをもって成長できるように

# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### 愛の定義・再考

院長 ● 河村 從彦

「互いに」(ヨハネ一三・34)

マルコの福音書二二章を見ると、イエスさまが愛をどのように考えておられたかがわかります(29、31節)。その内容は、

全力で神さまを愛しなさい。自分のように隣人を愛しなさい。

この二つに要約されます。そして、この二つは切り離すことができません(第一ヨハネ四・20)。

ところでこれは、共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ)の記述で、いずれも旧約聖書の引用です。ところが第四福音書(ヨハネ)になると、ニュアンスが少し変わります。

す(一三・34)。ポイントは以下の二つです。

わたしがあなたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

ちなみに書簡は、「心から互いに」(ローマ二一・10)と記されており、第四福音書の雰囲気に近いように読めます。

少し紋切り型に割り切りすぎのきらいもありますが、この違いは意味深いと思います。なぜイエスさまは、新しい戒めといったときに、「互いに」を強調されたのか。共観福音書の記述が不十分だということではありません。しかし、もしアガペーの愛を、無償の



3月4日の卒業式で 4名の卒業生紹介

愛、「代償を求めずに自分から出るもの」と定義すれば、「自分は愛しているから大丈夫だ」という開き直りも可能になります。しかしその場合、他者の尊厳に対する敏感さが感じられず、相手を無視する罪深さが潜んでいることもあります。

「互いに」は、自分を愛する視点が意識され、そして相手の尊厳を尊重する視点が意識されるという意味で福音的ですね。ヨハネ一三章には、ユダが出て行った場面が記されています。「互いに」がどれだけ難しいか、イエスさまはそのことを味わい尽くされたはずですね。と同時に、本当の意味では互いに愛せない人間の悲しみに深く共感されたのだらうとも思うのです。愛とは、愛せたとと言えることではなく、「互いに」の意味を深く意識できることなのでしょう。

### 神学エッセー

## 初めての試み 1 改めて「青年」を考えろ



葛田聡毅

昨年の年会で、神学院の教師のご任命を頂きました。それだけ無いただろう、と思っていた分野のご奉仕に戸惑いました。が、この機会を神学生の皆さんと共に学ぶ時と位置づけて取り組みました。

担当科目は、キリスト教教育の中の「青年」で、これまでも「CS教授法」はありましたが、「青年」という科目は初めてです。

担当するに当たり、テキストや他の神学校のクラスなどを参考にしようとも考えましたが、他にもこの科目はなく、その面でも全く新しい取り組みだと知りました。

今年秋に日本伝道会議が開催されますが、前回札幌大会で青年宣教に関しては、別会場で大きな枠として扱われました。それから今年に到るまで、プロジェクトが継続され、今秋に向けては既に昨年からの超教派の青年たちと若手牧師が協力して活動しています。

インマヌエルだけでなく、日本全体の教会が、次代のために青年宣教の必要を切実に感じています

が、それならなぜ、神学校の教科として挙げられていなかったのでしょうか。

個人の一生を考えても、青年期には人生を決定する大切な要素が詰まっています。思春期、第二次性徴期を迎え、心身ともに著しい変化と成長の時期。人生の大体の方向付けや価値観が固まってくる時期。具体的には、進学・進路の選択、就職、結婚も、青年時代に関わる大問題です。CS教授法があつて青年指導法がなかったのはなぜなのでしょう。それを考える所からクラスの準備、また実際のクラスが始まりました。

外国の教会で、日曜学校・教会学校というと、必ずしも子供向けクラスという訳ではなく、大人のクラスや職業別のクラス等もあると聞きます。日本でもそのような教会はありますが、大体の所では幼児科、小学校低・高学年、中学科、という具合でしょうか。義務教育の範囲内で、ここまではほとんど同じような枠組みの中で生活していますが、中学を卒業すると急に生活環境が多様化します。それは同時に考え方や価値観の多様化に繋がります。いろいろな選択肢が増えてきます。時の流れや流行に敏感な時代で、影響も受けやすくなり、わずか二、三年違うだけで「世代が違う」などと言うのです。なるほど「青年」というひと括りを作ったザ・テキストと呼べるような教科書に基づいて学ぶなんて、極めて困難な分野だったわけですね。

◆新年度の学びをまえにして

主のご計画こそなる!

聴講生 伊藤安司

BTCのため、お祈り感謝致します。

日々の妻との時間。家族の時間。仕事の時間。教会の時間。そしてBTCでの学びの時間。すべてを両立できない力の無さを嘆み締め中です。「影分身の術」と何度唱えたことでしょうか。数えてみると3回です。それほど忙しい中になりましたが、恵みの世界の広がりと同時に説教者としてのさらなる自覚をもつことができる学び、現在の自分を見つめることができ今年度は私にとって恵みでした。次年度は、仕事においても教会生活においても、少し荷が重なりそうです。今年の反省を踏まえ、効率良くこなしていくこと、家族の関係、学びにおいては時間をかけ、しっかりとした基盤を築いていきたいと考えています。

近況報告ですが、最近私は一つのことを体験しました。それは、私がこの現実で失望してしまっても、主に希望を置いている限り、希望が私についてくるということ

です。里親の働きをして約2年になり

ますが、里子は措置制度(子どもの願いは一応聞くが、ほぼ全て行政の判断で決まるという不条理な制度)によって、様々なことが決定します。今年高校を卒業するわが家の里子の進路もそういう形で決定していききました。納得できない……。そんな中で主はこう語りかけてくださいました。「この子に書き記した計画がある。」私は彼に本音を聞き、仲介者となって彼の願いを児童相談所の方に伝えました。何度も何度も働きかけましたが、何も変わらず、自分の無力さを思い知らされただけでした。しかし、その後「その子の決めた方向で話を進めたい」と児童相談所が言ってきたのです。神様がその希望を捨てず、導いて下さった結果だと確信しています。次年度も導かれる神様とともに伊藤家は歩みたいのです。

◆新年度の学びをまえにして

みことばの伝達者に

短期コース 大塚千穂子

「主よ。お心一つで」

(ルカの福音書五章12節)

主の御名を讃美申し上げます。尊いお祈りとサポートを感謝申し上げます。一昨年の秋に入学を許され、学びを続けさせていただき、

無事にこの春、第二学年後半に進むことができました。

昨年度は、私にとりまして、尊いみことばの御用をさせていだいた機会を多く与えられ、学びの豊かな時となりました。まだ、学びの浅い者ですが、この経験は、主に切に祈り求めること、聖書のみことばに真剣に向かうこと、そして、主からの答えをいただくという貴重なものとなりました。

また、みことばを求めて礼拝に集まれる教会員の皆様を前にするメッセージは、神学院のカリキュラムの一つである、チャペルでのメッセージとは全く異なるものであることを経験させていただきました。私自身、献身する以前、明日の力、月曜日からまた、一週間がんばるための、神様からの力、神様からのみことばを求めて集っていたことを思い出しました。忙しい日々の生活の中で、前回



第63期生卒業式 同窓会長・宮川浩二先生の祝辞

の礼拝のメッセージを思い出せないう、みことばは何だったのかと考える余裕もなく、今すぐに解決しなければならぬ目の前の問題に取り組んでいた以前の日々。そんな中でも「主よ」と助けを神様に求めることができたなら、聖書を聞き、みことばを求めることができたなら、信仰をもって神様にすがることができたのなら、それは勝利であるのだと、今は思います。「分からないから先生方のみことばの解き明かしが必要なんです。」という真実な言葉をお聞きしました。まさに私も同じであつたと思ひ起しました。主に従い、主にみことばの解き明しをいただき、信仰をもって、取り次がせていただきました。祈る者です。

◆新年度の学びをまえにして

真の教師であられる方

短期コース 戸塚雅昭

「あなたの目はあなたの教師を見続けよう」 イザヤ三〇章20節

「先生」と呼ばれ続けてきた者です。そのような私が献身する際、学校現場から離れるのは必然なことでした。神学院入学直前に定年退職を迎えたからです。このとき、残る生涯を献げた私としては、一区切りつけたと信じていました。

しかし、前期の授業が始まったとたん、私の心は悲鳴を上げたのです。あまりにも急激な環境の変化について行けない適応障がい症状に苦しみました。情けなくも私の信仰は風前のともし火です。38年もの間、教えることを神さまからの使命だと確信して仕事を続けてきた者が、黒板の前に立ち子どもたちに授業してきた者が、今はここで授業を受けている。神学生として当然の立場の転換なのに、なぜこんなにつらいのだろうか。

入学して三週間ほどたったある日、イエスさまの語りかけのようなものを感じました。「休ませてあげよう。心がびっくりしている。やめたいなら、それでもいい」と。お手上げ状態の私をいただき、共に苦しむイエスさまがおられました。「イエスさま。憐れんでください。あなたにすべてをゆだねますから。」

献身したつもりになっていました。それは単なる私なりのイメージに過ぎなかったのです。自分ではどうにもならない辛さのただ中で、恵みのゆえに主に召されていたことを再認識しました。献身が自らの体験となったときでした。その後、急速に心は癒されます。「先生」だった自分を真の教師であるイエスさまに託してから、学ぶことが本当に楽しくなりました。あれから一年。お祈りありがとうございます。お祈りありがとうございます。お祈りありがとうございます。

### 私の神学生時代 御手の中で形作られて

3期生 ● 尾崎 隆



「しかし、人よ。神に言い逆らうあなたは、いったい何ですか。形造られた者が形造った者に対して、『あなたはなぜ、私をこのようなものにしたのですか』と言えるでしょうか」

(ローマ人への手紙九章20節)

1950年4月から、教会生活を始めた私は、この年の第五次年会・宣教会で御霊に感動されて献身を表明しました。

そして、信仰生活を続けるなかで、献身への理解が深められるとともに、いつ献身への道(神学院への入学)に踏みだすべきなのかを強く意識するようになりました。しかし、それと同時に、自分は本当に召されているのか、献身の道を全うすることができるのか等々、次々と疑問や迷いが心を支配するようになりました。

では、どうすればよいのか。決断しかねていたとき、示されたのが冒頭のみことばです。

主は、年頭の祈禱会から帰る途中の私に臨んでくださったのです。私は路上で主を仰ぎ、「主よ。分

かりました。全てを委ね、御心に従います」と祈りました。そして心に平安が与えられ、すべての迷いは取り除かれて、神学院への道に進むことができました。

第六次年会後、月足らずの私は、第三期生のひとり(テスト生)として入学を許されました。

それから三年間、葛田二雄初代院長先生の膝下で共に生活し、学び祈られる中で、扱われ、練られ、主の働き人にふさわしく形造られることになりました。

院長先生は主要学科をご自分で教えられ、授業の中で、伝道者としての心得と諸問題への対処、霊的経験の問題などにも触れて指導してくださいました。

特に、毎週月曜夜に持たれた合同祈禱会は、緊張した雰囲気と霊調の中で、しばしば夜半にまで及び、たましいを深く探られ取り扱われる時でした。

霊の世界のことは、霊の人の醸し出す雰囲気の中で呼吸して悟り、把握する以外にはない、と言われますが、院長先生が直接指導された合同祈禱会は、まさにその貴重なひとときであり、不可欠な営みでありました。

神学院での三年間は、月足らざる私にとって、信仰の基本、主の働き人としての在り方の基礎を据えていただいた時であったと思ひ、深く感謝しています。

### 同窓生の近況

37期生

COG 春日井栄光教会 ● 関 昌宏



「しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」

(1コリント一五・10)

神学院卒業後、川崎、三重県錦、愛知県春日井と三教会目の奉仕です。現在の教会は名古屋のベッドタウンにあり、前任の先生による開拓から27年になります。主への真実な礼拝と温かい交わりから宣教へと向かう共同体を目指して、礼拝のプログラムを話し合う委員会を設け、ともに食することを大切に、宣教師やワーカーを積極的に招き寄せています。またクリスマスやイースターには、地域の子供たちを祝会に招くことに注力しています。数年前から新会堂建設を祈り、話し合いを重ね、今は

なお、主を仰いでいるところで、私自身は教団の仕事や超教派の働きも多く抱えて、手の届かないところもありますが、家内と大学生の息子、そして教会員がその欠けを補ってくれています。インマヌエル中京教区の先生方とは親しい交わりが与えられ、感謝しています。すべてのことは、ただただ神の恵みと思う今日この頃です。

### 図書館の新しいサービス

図書館 新垣重夫

アラムナイ・セミナーや年会などで先生方に久しぶりにお会いし、お話しする機会がありますが、その時こんなことが話題として出て来ます。「図書館でこんなことをしていただけなのですか」というご要望、ご提案です。

さいわい、小林佳先生が図書館司書の資格を取られました。それによってコピー・サービスが可能となりました。もちろん一冊丸ごとは無理です。でも一部なら可能です。

そこで考えたことは、まず要望のあった図書目次を(電子)コピーしてメールで送る。そして必要ページをコピーして送る。いま蔵書は日本語のものが随分と充実してきました。これらを有効活用することができたらと願っています。

### 神学院スタッフ…恵みの想起

### 学苑だより



● 新入生を迎えて、春の、心躍るキャンパスです。

● 3月31日(木)の歓迎夕食とオリエンテーション、4月1日(金)の入学式・始業礼拝をもって新年度を始めました。

● メンテナンス委員会が年会を機に正式に活動を始めました。今年は70周年記念事業も射程に入れた、樹木の伐採のプランを策定するなど、キャンパス全体の見直しを行います。

● B・T・Cサポート、そして神学院献金への加入を心から感謝致します。サポートの皆さまとのつながりを密にすることを目指して、B・T・C後援会構想が提案されました。後援会構想は、信徒の皆さまの視点を大切にしていきたいと願っています。折々にご報告致します。ぜひ祈ってください。

● 4月の神学院祈り会は5日(火)・午後6時からです。

### サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。2月の会計報告をさせていただきます。

2月分支援実状  
〔今年度毎月献金目標〕  
¥2,000,000

教会員による  
「神学院サポート献金」  
¥703,840  
教会団体による「神学院献金」  
¥614,818  
合計 ¥1,318,658

その他の献金(一時・特別)  
¥110,000

・振替: 00230-0-10138

# 公報

## 本部通達

「わたしには天においても、地においても、いっさいの權威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。…見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

(マタイ二八・18-20)

第71次教団年会、受難週、イースターを越えて、新しい年度に入りました。復活の主とともに、その恵みに生かされて、新年度の働きに踏み出しましょう。特に、年会において伝道者の異動や変化のあった教会においては、格別な主のみ助けが加えられますようお祈りいたします。

### ■本部

年会において、以下の方々に教職、教職試補、定住伝道師の辞令が交付されました。(括弧内は今年度の任命地)

▽教職辞令

渡辺 寛師 (浜田教会)

▽教職試補辞令

橋本千尋師 (狭山教会)

▽定住伝道師辞令

館 和人師 (船橋教会)

大島あや子師 (宇都宮教会)

■国内教会局

〈春の教区会日程〉

5日(火) 沖繩

11日(月) 神奈川

11日(月) 12日(火)  
中京、四国、南九州

12日(火) 北関東

18日(月) 19日(火)  
北越、北九州

19日(火) 静岡、近畿

19日(火) 20日(水) 東北

25日(月) 東京

26日(火) 東関東

〈教区集会〉

29日(金)

あつまる教区・中国教区

〈引退について〉

年会において、以下の先生方の引退が発表されました。貴いご奉仕に心から感謝し、また今後の生涯に祝福をお祈りしましょう。

田中 敬康師

高島 慶子師

萩原 雄介師

萩原 恵子師

山本 厚子師

\*高島慶子師の引退に伴い、福島教会は、今年年会をもって借家での活動を一旦閉じ、郡山教会に連絡所を置くことになりました。

〈月例支援金について〉

今年度の教会月例支援金の申請は今月末が締切となっておりますので、申請を予定している教会は、申請書を国内教会局までご提出ください。

■総務局

▽教団の各部局・委員会等において、教団サーバ利用のメーリングリストの新規・追加・変更の希望がありましたら、総務部の佐藤信行師までご連絡ください。

### ■世界宣教局

▽ザンビア派遣の富澤香宣教師は、先月6日に無事赴任されました。引き続き宣教師館建設のためにお祈りください。

▽フィリピン派遣の豊田常喜宣教師一家は、先月9日に無事再赴任されました。今期は拠点をシニップからロサリスへ移します

ので、引越等、すべてに主のみ守りがあるようにお祈りください。

新住所は左記になります。

c/o Rosales Wesleyan Bible College 2441, Rosales, Pangasinan

PHILIPPINES

▽葛田緑乃宣教師は5月末からカンボジアを訪問する予定です。健康と準備のために主の祝福をお祈りください。

▽ポリビア派遣の三森宣教師ご夫妻は本年9月に帰国され、10月から来年2月にかけて巡回報告の予定です。巡回の申込は世界宣教局・葛田敬子師までお願いします。

▽我孫子のミッシェンハウスには、安食教会派遣の島田貴子師がしばらく滞在されます。新しい地での生活に主のみ守りをお祈りください。

《IWF関係》

▽ザック・マッツ宣教師方の日本赴任は、今秋の予定となりました。お祈りにお覚えください。

▽WGMの次期総理としてダニエル・シェーファー師が選出され、7月に就任されます。

■教育局

発行人 藤本 満 編集者 北田直人

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇

〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

郵便振替 001107133609

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)

郵便振替 001107133609

### 〈信徒伝道者認定〉

年会で、以下の方々の信徒伝道者資格の更新認定がなされました。

(更新)

小林喜久男兄(中目黒教会)

豊島 幹男兄(中目黒教会)

田中美枝子姉(中目黒教会)

鮫島 建 兄(浜松教会)

峯尾 京子姉(別府教会)

阿部 妙子姉(別府教会)

竿代 丈夫兄(立川教会)

額田 昭 兄(船橋教会)

池田 光重兄(千葉教会)

山田由紀子姉(四日市教会)

太田 循子姉(草津教会)

渡辺 明治兄(北九州教会)

〈女性部〉

4日(月) 女性部運営委員会

〈青年部〉

4日(月) 青年部運営委員会

29日(金) 関西ユースステーション

29日(金) 静岡教区青年大会

■聖言神学院

▽3月7日の入学審査に合格された方は以下の通りです。

額田 昭兄(インマヌエル船橋教会、聴講)

入学式は4月1日(金)。これから開始される学びのためにお祈りください。

▽3日(日) から教会実習、5日(火) から授業が始まります。

▽神学院祈り会 5日(火) 午後6時から。メッセージは内山勝先生です。

▽同窓会幹事会 今年度は5月2日(月)になりました。午前10時30

分から、本部会議室。

■『祈りのネットワーク2016』先月末締切だった写真や祈りの課題の提出をお願いします。(郵送の場合は久留米・吉村和記師へ、メールはinori@immanuel.or.jpまで)

### ■出版事業部

▽『聖と宣』の足跡——インマヌエル紹介の旅』を年会時に発行いたしました。見本と案内申込書を送付いたしましたので、ぜひ各教会でご利用ください。

▽来年9月秋発行予定の『聖書新改訳2017』のサンプル版が出ました。読みやすく工夫されたのを、目でお確かめください。

▽出版事業部の信徒のスタッフは午後4時で帰宅いたします。注文・問い合わせなどは、午後4時までお願いいたします。また午後3時を過ぎた場合、発送が翌週扱いとなる場合があります。聖書などは在庫がない場合は取り寄せとなります。ご理解とご協力をよろしくお願いたします。

## 消息報告



▽元WGM宣教師のデニス・プロブス師は病氣療養中でしたが、3月19日(土)に召天されました。日本における40年近いご奉仕に主の豊かな報いをお祈りします。ご遺族に天からの慰めをお祈りしましょう。